

同援だより

2024年 盛夏号 (200号)

CONTENTS

2024 事業計画
2023 事業報告
施設通信

時時刻刻の波

理事長 飯山 幸雄



7月7日投票の東京都知事選挙の結果、小池百合子氏が石丸伸二氏や蓮舫氏を寄せ付けず三選されました。七夕選挙となった今回の都知事選には過去最高の56人もの候補者が名乗りを上げ、ポスター掲示板が足りないなどの混乱もありましたが、首長選でよく言われるように現職が強みを発揮した結果となりました。今回の選挙では少子化対策等いろいろな論点が上げられましたが、社会福祉法人として東京の社会福祉事業の一翼を担う私たちが三期目の小池都政に期待したいのは、何といたっても社会福祉施策の充実です。

6月5日厚生労働省が発表した令和5年人口動態統計月報年計によると、出生数は72万7,277人(前年77万759人)に減少し、合計特殊出生率は1.20(前年1.26)と落ち込んだとのことで、都道府県別にみると東京都が0.99と唯一1を切っています。日本の人口の推移については、国立社会保障・人口問題研究所の令和5年推計によれば、今後とも合計特殊出生率は低下し、総人口は50年後に現在の7割(8,700万人)に減少し、高齢化率はおよそ4割に達するとのことで、総人口の減少と少子・高齢化のトレンドは引き続き日本を覆っています。その中で、首都圏への人口流入はすさまじく、東京都の住民基本台帳による6月1日の都の人口は1,398万人で日本の総人口の1割以上が集まる“一極集中”が加速しています。新たな都市問題、福祉ニーズが発生すると思われます。

少子化対策についていえば、ここ数年保育所が急速に増設された結果、統計上の待機児童数は激減しました。そして今定員を満たしていない保育園が目立つとともに、反面、保育士不足が深刻になっています。本会でも保育士確保のため、養成校に採用案内を行い、毎月採用試験を実施していますが、必要人員を安定的に確保するのは難しい状況が続いています。

また、今年は6年に一度の診療報酬、介護報酬及び障害福祉等サービス報酬の同時改定の年でしたが、それぞれの報酬について様々な評価の見直し等があり、「地域包括ケアの深化」を軸に医療と介護、医療と障害者・児福祉サービスとの連携がより強く打ち出されています。報酬の内容はかなり細かくなるとともに、算定の要件が厳しくなっているので、必要な条件を満たすために施設経営上の努力が一層問われることになりました。

このように本会を取り巻く環境は厳しい局面を迎えています。今こそ同胞援護会の底力を発揮して適切に事業を推進していきたいと考えています。

退任挨拶



評議員退任のご挨拶

前評議員 **いがらし 力平**
い が ら し り き へ い
五十嵐 力平

この度、6月30日をもって当会の評議員を退任いたしました。平成24年5月に委嘱いただき12年間となりました。振り返って平成10年4月に

企画部長、常務理事、監事そして最後に評議員と都合26年の永きに渡りました。

それぞれ在任中多くの役職員の皆様方との出会いの中、ご一緒に仕事できたことは貴重な経験でした。

その間、社会の変化は著しく、社会福祉を取り巻く環境は大きく変化いたしました。在任中の思いにかえて少し福祉の流れを振り返ってみます。

まず、福祉施設の基本となる社会福祉事業法が平成12年に社会福祉法へと、実に49年ぶりに改正されました。改正の根幹は利用者の利益の保護を前面に、地域福祉の推進、社会福祉事業の健全な発達を図るとするものでした。

同時に介護保険法がこの年から施行され（平成9年制定）、これまでの行政行為の措置から利用者との私法上の契約へと改革され、利用者支援の仕組みの大転換の契機となりました。

その後福祉関係法は多く改革され、平成28年には社会福祉法が再び改正され、理事会、評議員会の機関のあり方、事業運営の透明性、財務規律の強化等、経営組織の改正がなされました。

特にこれまで評議員会が任意設置、諮問機関として、理事や理事長に対する牽制機能が不十分として、評議員会を法人運営の基本、体制の決定、必置の議決機関とした画期的な改革でした。

これから福祉経営は、介護報酬一つを取り上げてみても、組織的にも財政的にも一層厳しい方向に向かっているように感じます。

これまでの26年間、役職員の皆様方と一緒にさせていただいたことに感謝申し上げ、同援のますますの発展を願いまして、退任のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。



評議員退任のご挨拶

前評議員 **ななしま はるひと**
な な し ま は る ひ と
七島 晴仁

この度、貴会評議員を退任いたしました七島晴仁でございます。退任に際し、一言ご挨拶を申し上げます。私は令和3年6月から3年間、評議員を務めさせていただき、大変お世話になりました。就任当時はすでにコロナ禍であり、私が勤務していた板橋区社会福祉協議会においても、コロナ感染症予防に始まり、事務事業の中停止・実施の決定、利用者等の引きこもり対策など多様かつ困難な対応を実施しておりました。また、同時にコロナ禍による収入減対策である特例貸付が約2年半に亘り実施され、板橋区だけで、貸付申請件数が約3万件、貸付申請金額が約120億円という一大事業となりました。この厳しく不安に包まれた社会状況の中、大規模な恩賜財団

東京都同胞援護会において、飯山理事長を先頭に理事の皆様方、職員の皆様方が事業を推進してこられたご苦労には、心より敬意を表させていただきたいと思っております。

そのような大変厳しい状況にある中で、私は貴会の評議員を務めさせていただきました。コロナ禍でしたので、対面とズームを併用する会議も実施されましたが、評議員の皆様方のご意見等をお聞かせいただき、大変勉強になりました。また、私は板橋区社会福祉協議会では、理事会や評議員会の運営側の立場にありましたので、貴会の理事会や評議員会の運営を大いに参考にさせていただきました。心より感謝を申し上げます。

最後になりますが、貴会の評議員としてお世話になりましたことに深く感謝を申し上げますとともに、理事長をはじめ理事の皆様方、評議員の皆様方、そして職員の皆様方のご健康と益々のご活躍を、そして貴会の益々のご発展をお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。



施設長退任のご挨拶

サンライズ万世 **ふくだ きょうこ**
前施設長 **福田 恭子**
ふ く だ き ょ う こ
福田 恭子

昭和60年4月に入職し、令和6年3月をもって東京都同胞援護会を退職いたしました。当時は生活指導員として万世敬老園、いこいの家、昭島荘に

勤務し、家庭支援専門相談員として双葉園、施設長として児童女性支援系グループで10年間過ごし、サンライズ万世で退職となりました。法人本部、施設長の方々や職場の職員の皆様方に支えられ、高齢者支援から乳児までの支援に関わったことは私にとって貴重な経験となり、利用者の方々からも多くの力を与えて頂きました。利用者の方の一

言ひとことに何が最善の支援か苦慮することもありましたが、それぞれの人が困難な状況を乗り越えて成長していく姿を見て、職員とともに喜んだ場面が印象に残っています。

また、今年度「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が成立し婦人保護施設も女性自立支援施設と名称変更となりました。女性支援に関わってきた中で、様々な課題を抱えた女性の支援を行う関係機関が連携して法定に至ったことは感慨深いことです。児童関係では、子どもの権利擁護を確かなものにすべく子どもの声を聴こうとし、退職して福祉施設の役割の大切さを実感しています。より暮らしやすい社会となることを願っております。

最後にご指導くださった先輩方、ともに働いた職員の皆様へ心より感謝しております。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

就任挨拶



ニューフジホーム

施設長 あさみ 浅見 ともひろ 友博

4月よりニューフジホームの園長に就任いたしました。

私は平成16年に本法人に入職し、最初に着任したのはフジホームでした。その後、原町ホーム、ひかり苑を経て当施設の施設長就任に至ります。

ニューフジホームは昭和56年に開設以来、多数のボランティアをはじめ、地域の方々にあたたかく支えられ、今年で43年目を迎えることとなりました。43年間という長い歴史を刻むことが出来たのは、これまでご利

用者の支援に携わってこられた諸先輩方、なによりも利用して下さったご利用者とご家族のおかげだと感じています。

今年度は介護・診療報酬の同時改定等もあり、大きな節目の年となります。ニューフジホームも介護人材の確保やICTのさらなる導入、施設全体の建替えプロジェクト等、様々な課題に取り組みながら、理念である『丁寧な寄り添う介護』を進めていければと思います。

これからもニューフジホームのご利用者職員が常に笑顔で心穏やかに過ごせる場となるよう、魅力あふれる施設を目指して精一杯取り組んでいく所存です。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



事務局 施設部

施設課長 かわばた 川畑 りょうすけ 亮介

4月1日より、施設部施設課長を拝命いたしました。

現在、私は障害者福祉サービス事業所（仮称）久我山生活園の創設工事全般を担当させていただいております。公募から今日まで、約4年の歳月を経て取り組んできた事業も来年1月に竣工し、4月に開園を迎えます。障害者支援系グループの職員の皆様をはじめ、施工・設計にご協力いただきました皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

今後は昭和郷の施設整備計画や順次老朽化を迎える施設への対応等、施設を継続的に運営するための中長期的な計画に取り組んで参ります。

施設の運営面では、安全対策・人権擁護・苦情対応等、適切なサービスの提供について、内部検査を通して関わらせていただきたいと思います。利用者本位のサービスが提供できるよう施設の交通整理ができればと考えております。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



双葉園 高嶋の家

ホーム長 さとう 佐藤 たかお 孝夫

令和6年4月1日より双葉園の高嶋の家のホーム長に就任いたしました、佐藤孝夫と申します。どうぞよろしくお願い致します。

職員としてのスタートは平成17年4月、サンライズ武蔵野でした。

当時は、事務兼任指導員だったこともあり、4月から給与の計算、6月賞与、夏になったらキャンプなどなど、仕事の流れに慣れることで必死でした。

平成29年には事務局施設部へ異動。主に施設の補助的立ち位置で事務をして参りました。施設の外側から俯瞰して見る、そんな意識の6年間でした。その間に同援いぐさ保育園の開設まで携われたことは良い経験でした。

双葉園に配属となり2年目。児童養護施設での現場経験はゼロの為、未だ悩むことばかりです。ただ子ども達の近くで仕事をしていることが面白さであったり、自分のモチベーションになっていることを実感しています。

今後双葉園ではグループホームを中心とした養護に転換していきます。子どもたちにとっても職員にとっても居心地の良い場所、戻ってこられる場所、そんな場所を作り出せるよう努力してまいります。

施設通信 魅力発見

東村山生活実習所の三つの魅力

「自然豊かな広い所庭」

春、桜でのお花見に始まり、夏には花壇のひまわりと皆で育てた夏野菜の収穫、秋には里芋の収穫とイチヨウの紅葉、そして冬の降雪時には雪だるま作りなど、存分に四季を満喫できるとても恵まれた環境です（除草と虫対策はすごいです！）

「Café fluffy (カフェ フラフフィ)」

色鮮やかな花壇を眺められるオープンテラスで、シフォンケーキとコモネストのコーヒーを提供しています。各種焼き菓子等もあり地域の皆様にとっては憩いの場所となっています（犬同伴の利用OKです！）。

「職員の使命感と責任感」

行動障害があり、様々な支援が必要とされる方や、家から出られず通所が難しい方でも私たちは決して支援をあきらめません。専門性の高い根拠ある支援を、今までの経験と重ね合わせワンチームですすめています。支援面以外でも、職員皆が自分の業務に責任と誇りをもっています。例えば日々のドアツードアによる送迎は、台風や大雪、東日本大震災時でさえも、開所当初から今まで一度たりとも中止をしていません。これにより、送迎なしでは通所できないご利用者とそのご家族の「地域生活」を支えています。これらの使命感と責任感は当施設の最高の魅力ではないでしょうか！

私たちは、当施設のモットーである「笑顔 優しさ 明るさ めくもりを感じる言葉かけ」を合言葉に、ご利用者、ご家族はもちろんのこと、職員にとっても魅力ある施設を皆で目指しています。いつでも遊びにいらしてくださいませ！

ふるばやし のぼる
副施設長 古林 昇



職員がまず楽しんでいる フジ・デイサービスセンター

おおつかたかひろ
副施設長 大塚隆寛



創作活動

フジ・デイサービスセンターは、特別養護老人ホームフジホームに併設している通所施設です。デイサービスは、自宅にこもりがちになってしまった方に外出の機会を提供したり、介護者（家族）の介護負担軽減の為に自宅から離れる時間を作る等、利用する理由は様々です。

ご利用者の自宅に送迎車でお迎えに行き、センターでレクリエーション、体操、昼食、入浴などを提供し、夕方自宅にお送りします。

デイサービスでのプログラムの一つとして、レクリエーションがあります。基本は専門誌に載っている間違い探しやことわざのクイズなどをしますが、ときには職員が独自で考えて行うこともあります。

また、手工芸の見本をオリジナルで作るなど、職員それぞれが意見を出し合いながら内容を考えている姿はとても楽しそうです。それがご利用者にも伝わり、全体として楽しい雰囲気づくりにつながり、チームワークの良さも当事業所の大きな特徴です。

コロナ禍でいろいろな活動を制限していましたが、昨年よりフィットネスジムのトレーナーに来てもらい体操を指導していただいたり、中止していたボランティアによるアコーディオンやギターサークル、マジックなどを復活したり、にぎやかな歌声や音楽が響くデイサービスセンターの日常が徐々に戻ってきました。保育園との交流など、年代を問わずいろいろな地域の方たちともつながりながら、昭島の高齢者の方にとって安心できる場所、楽しい場所としてご利用いただければと思っています。



リハビリ体操



ギター鑑賞



的当てゲーム

カラフルな子どもたちとともに

保育士 さいとうしょうこ
齊藤昌子

昭和郷第二保育園の年長は、36名の元気いっぱいな子どもたちです。現在お泊り保育に向けて活動中です。「お泊り保育」をテーマにマッピング^{*}を行うと、普段意見を言わない子が自由に発言をし、想像を膨らませて楽しそうでした。それが形になっていくと嬉しそうに「僕も手伝うね」「これは〇〇で作って見たら？」と積極的に参加し、いつしか子ども同士で作り上げるようになっていました。マッピング^{*}では夕食についても話が広がり、一人が「マクドナルドが食べたい」と言うと意気投合し「ポテトが食べたい」「じゃーランチルームをマックにしよう！」とランチルーム全体をマクドナルド風にするうと決まりました。気持ちはより高まり「マックに見に行きたい！」子どもの意見が



マッピングの様子



マクドナルド見学

どんどん広がり、本当にマクドナルドまで見学に行きました。「どんなお仕事ですか？」「メニューはいくつありますか？」等、目を輝かせてお店の方に質問したり、店内を見学し、子どもたち自身で進めていく姿に驚かされました。そして、園に戻って検討会議！！「何を作る？」「レジは必要だね」「メニューも作ろう」と次々に意見が出ます。子どもたちが自らの意志で進めている時の目は、とてもキラキラ輝いており、見ているこちらまでわくわくが止まりませんでした。

大人が作り上げるのではなく、子ども自身でやってみたい事、興味がある事を探求し目標を作って全力で取り組む子どもたちは、大人以上に力を発揮します。その姿はまさにカラフルで可能性の塊です！私たち保育士は、その力を信じ、安心して子ども自身で活動できるよう見守り寄り添いカラフルな子どもたちとともに楽しみ、笑いが絶えない保育を目指し、学び続けます。「子どもたちが才能を発揮し、更に私たちもパワーがもらえる」これが最大の魅力なのではないかと感じています。これからも、子どもたちと沢山の経験を重ね、自分を好きになり、未来に向かって成長していく姿を見守っていききたいです。



実体験 水のライト

^{*}マッピング……思いついた「考え」「ひらめき」「情報」などをマップに描くように書きとめ、それぞれの考えを関連づけ構成していく。

2024 東京都同胞援護会 事業計画

令和6年度の我が国の社会保障関係費は、過去最大の36兆8,687億円となり、前年度に比べて2.3%増の8,506億円が増額されました。

報酬改定では、診療報酬+0.88%、介護報酬+1.59%、障害福祉サービス等報酬+1.12%となり職員のベースアップが反映したプラス改定となりました。

一方で、東京都の福祉・保健分野の歳出予算は、018サポート（18歳以下に月5,000円給付）の継続実施など、引き続き子ども支援策に力を入れる一方、介護や障害分野で従事する職員の住居費を補助する事業経費の増などにより4.7%増の725億円が増額されました。

本会としては上記の情勢を踏まえ、中長期計画に沿って魅力ある未来をつくるための「持続的成長」を目指した経営を行うとともに、地域に根差した事業の着実な継続や社会貢献活動に取り組んでまいります。

デジタル化推進のための専属の担当部署を新設

事業実施にあたりましては、利用者の安心・安全の確保を第一に目指すとともに、業務の高度化・効率化を目指してデジタル化推進のための専属の担当部署を新設し、DX推進に取り組みます。

その結果として人にやさしい職場環境を実現するとともに、利用者お一人おひとりのニーズに即した温もりのあるサービスの提供に努めます。

また、引き続き安定した財務基盤の強化、サービスの担い手である人材の確保と育成を重点目標にいたします。

新規事業と施設整備

新規事業としては、まず杉並区南部の地域ニーズに根差したものとして、都有地活用による障害者支援施設「仮称久我山生活園」の本格的な建設に着手します。この施設では、障害のある方の多様な価値観や障害特性に合わせた地域生活が継続できるよう、またご家庭での生活が困難になった時や高齢化により生活環境が変化した場合を視野に入れて将来につながる支援サービスを提供します。

生活介護40名、短期入所2名、グループホーム2ユニット10名、地域交流スペースを併設し、障がいの有無によって分け隔てられることなく社会の一員として安心して生活が送れるよう地域に根差した運営を目指します。

また、児童養護施設双葉園では家庭的養護の推進を実現していくために、新たに2か所のグループホームの8月開設を計画しています。

旧婦人保護施設いこいの家は、一人の女性としてその人らしい自立した生活を送れるよう4月1日の「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の施行に伴い、女性自立支援施設へ衣替えし多様なニーズに対応できる事業展開を行ってまいります。



建設中（仮称久我山生活園）



グループホーム（りんどう・わかば）

福祉人材の育成と職場環境の整備

福祉人材の育成と職場環境の整備については、インフレ率を上回る賃上げがあらゆる業種・団体に対して求められておりますが、本会においても冒頭に上げた各種報酬等に措置されている給与引き上げ分や加算を基に処遇改善に関する各種手当を見直し、賃上げ等確実な処遇改善を行ってまいります。

各施設では処遇改善に相応のサービスの質向上に努め、デジタル技術を活用した業務改善並びに労働生産性を上げる取組みも同時に行ってまいります。

さらに福祉人材の確保と定着のために、本会では「人を大切にする」（職員が互いに一人ひとりの人格を尊重し合い、信頼関係で結ばれ、安心・安全な職場づくりを進める）ことを実現するため、一般職員には階層別研修に加えメンタルトレーニング研修を、管理職に対しては組織マネジメント研修をそれぞれ継続して実施してまいります。



メンタルトレーニング研修

財務基盤の強化

財務基盤の強化については、老朽化した施設の建替えのための財源確保や賃金の上昇を見据え、社会福祉事業を安定的に支える収益事業については、事業局による新規顧客の開拓をはじめ、不動産賃貸事業の適正な管理や確実な資産運用を進め、また業務委託の見直しなど経費削減の具体化に努め、持続可能な財務体質の強化を図ってまいります。

昭島病院

昭島病院については、医療の質や安全、持続可能な医療提供体制を確保するため、医師の働き方改革に沿った診療環境を整え、医療機器や設備の更新を計画的におこなってまいります。更には診療報酬改定及び「地域の医療需要の変化」への対応として、病棟や外来、訪問診療、リハビリテーション体制の充実に取り組み地域医療の中核的な役割を果たしてまいります。

本年度も役職員一丸となり、利用者の皆様や 地域の方々から信頼される法人であり続けるために精進してまいります。

同援護会が DX 推進で目指す未来

～利用者満足と職員の働きやすい環境の実現～

近年、デジタル技術の進歩は目覚ましく、私たちの生活に大きな変化をもたらしています。同援護会もこの流れに乗り、今年度新たにデジタル推進担当課を設置し、DX（デジタルトランスフォーメーション）を積極的に推進していくこととなりました。

《 DX 推進の目的 》

DX 推進の目的は、同援護会の施設が利用者から選ばれ、発展していくために、デジタル技術を活用し、利用者に対するサービス向上と、それを支える人にやさしい職場環境の実現を目指しています。

《 具体的な取り組み 》

1. 利用者に対するサービス向上

① 利便性改善（サービスの快適性向上）

情報検索システムの充実による必要な情報への迅速なアクセス、各種手続きのオンライン化による事務手続きの簡素化を目指します。

② 安全安心の向上（利用者の事故防止）

GPS や見守りセンサー、カメラの導入により、より一層の利用者の安全確保が見込まれます。

③ 介助・見守りロボットの導入による職員の負担軽減

見守りセンサーの導入やチャットボット相談などの活用により利用者への支援や相談に迅速な対応が可能となります。

2. 人にやさしい職場環境の実現

① 日中作業の軽減

機器導入による職員の負担軽減（事務処理、運搬、清掃など）や、ペーパーレス化による事務作業の効率化など負担軽減が図れると期待しています。

② ストレスの解消

会議録作成 AI の導入による記録時間の短縮や日誌記録システムの導入による事務作業の効率化、シフト作成 AI の導入による職員の負担軽減と業務の効率化を目指します。

③ 情報共有の効率化

利用者情報共有システムの導入による情報の一元管理や、社内ポータルなどの導入による情報共有の円滑化を目指していきたいと思っております。

これらのようなシステムや機器を導入するだけでは効果は表れません。システムの操作方法の習得や、実務研修やレベルごとに分けた研修も必要となります。

またこれらはすぐに効果が出るものではないと思います。継続することで将来的に目的を達成できればと考えます。

これらの取り組みを通して、同援護会の施設は利用者にとって魅力的で選ばれる存在となり、職員にとっても働きやすい環境が整備されることを目指しています。

2023 東京都同胞援護会 事業報告

我が国の経済は、コロナ禍の3年間を乗り越え、30年ぶりとなる高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、先行きに前向きな動きが見られています。

政府は、賃金上昇が物価上昇に追い付くよう、昨年11月2日に構造的賃上げを図る「デフレ完全脱却のための総合経済対策」を閣議決定しました。

しかしその一方、新年を迎えた1月1日、能登半島地震が発生し、甚大な被害に見舞われました。今もなお多くの地区で避難指示が出されており、特別養護老人ホームや福祉避難所では、復旧の見通しが立たずに息の長い支援が求められています。

本会としても、被災地支援のための職員派遣登録や募金活動を行いました。

2023年度も社会情勢の変化に対応しつつ、本会を取り巻く環境変化を見極めながら中長期計画に添って「持続的成長」を目指した経営を行ってまいりました。

保育園の稼働状況

事業関連ですが、保育支援系施設の稼働状況は、同援いぐさ保育園（開園2年目）の3から5歳児の未充足の影響とともに、都心部を中心とした待機児童の減少が要因となり、保育園10園全体の稼働率は99%となりました。



夏野菜・果物の栽培

選ばれ続けるための「ミライ委員会」を組織

高齢者支援系施設では、いつまでも選ばれ続けるというビジョンを実現するための「ミライ委員会」をグループ内に組織しました。

障害者支援系施設では、豊島区東部西部障害支援センターの受託期間満了により受託を終了する一方で、新たな障害支援施設（仮称久我山生活園）開設に向けた建設工事を開始しました。

児童女性系施設双葉園では、家庭的な養育環境の形態に近づけるためのグループホーム開設に取り組んでまいりました。

計画通り8月の開設を予定しています。

財務状況

財務状況につきましては、万世敬老園の事業閉鎖計画や新型コロナウイルス感染症の影響による介護保険施設の稼働の低迷などのマイナス要因もありましたが、物価高騰に対する補助金などのプラス要因や予算管理の徹底した取組みにより、多くの事業所の収支は良好に推移しました。

その他、集合住宅賃貸事業をはじめとした不動産賃貸事業や印刷事業などの収益事業は安定的に収益を確保し、本会における財務基盤の下支えとなりました。

2023年度の事業活動増減差額は3億6778万円を計上することができました。

一方で昭島病院は、コロナ関連の補助金の減少とともに、外来患者の減少（昨年比6.7%減）が収支に大きく影響し、7430万円の赤字を計上しました。外来患者数は「物価やコロナ感染の動向」に左右されており、コロナ禍前に比べて、軽微な症状での受診が減少している影響が反映されたかたちとなりました。

利用環境の維持・向上

施設運営につきましては、昭島病院のMRI入替をはじめ、その他事業所における特殊浴槽の入替、空調機器やエレベーターの整備など利用環境の維持・向上に努めました。



MRI



特殊浴槽



日常（ニューフジホーム）

新型コロナウイルス感染症につきましては、新たな感染の広がりによる対応に追われながらも、行事や面会の再開など日常を取り戻すことが出来るようになりました。

法人基幹システムの更新

施設を支える法人基幹システムの更新を運営に支障を来すことなくおこなうことが出来ました。電子帳簿保存法への対応や電子承認の仕組み作りなど、ペーパーレス化へ向けた取組みにも繋がっています。更に新しいウイルスにも対応出来るようセキュリティー機能を強化し、安全なネットワーク環境が整えられ、作業効率も高められました。

地域への取組み

地域への取組みについては、昨年に引き続き、活動そのものが限定的とはなりましたが、感染防止に努めながら、生活困窮家庭の子どもの学習支援や地域見守り配食などの社会貢献活動をおこなってまいりました。

保育士17名を含む新規職員を53名採用

人材確保については、法人全体では新規採用職員53名、正規転換11名(計64名)を確保しました。

また物価が高騰している状況を踏まえ、現職員に対する処遇改善として、全職員に対し10月から「特別調整手当」を毎月支給するとともに、年度末には特別手当として一時金を支給いたしました。

人材育成については、各支援系グループで分野別専門研修を実施したほか、施設長等人事考課の考課者を対象とした施設マネジメントに関する研修を隔月で実施し、職場環境の改善や職員との面談技法の習得・実践をしたほか、管理職員等に対してDX推進の目的・意義の理解を促しました。



新任職員研修

中長期計画の第3期計画の策定

2023年度は、中長期計画の第3期計画の策定、並びに第2期までの報告書の作成を行いました。

本会の取組むべき課題の更なる充実と未達成の計画への積極的な着手を計画の中に取り入れており、これからも中長期計画に沿って本会の社会的使命や役割を明確にするための活動をおこなってまいります。

施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

● ● ● 役員・評議員 ● ● ●

役員（任期：令和7年6月定時評議員会の終結時まで）

理事長	飯山幸雄
常務理事	横山宏
理事	品川卓正 小林一己 宮崎牧子 西村七重 雑賀真 上原淳 田代秀之
監事	鈴木道生 根本昌廣

評議員（任期：令和7年6月定時評議員会の終結時まで）

本山美八郎 堀茂 岡橋生幸 飯村史恵 田中康道 吉村晴美 細谷訓之
 （新任）久保田義幸 （新任）折居千恵子 （新任）陣野原伸幸
 （退任）五十嵐力平 （退任）川向良和 （退任）七島晴仁
 長きにわたり、ご尽力いただきました。ありがとうございました。

決算報告書

事業活動計算書

(自)2023年4月1日(至)2024年3月31日

(単位:千円)

サービス活動増減の部	
サービス活動収益計(1)	12,486,823
サービス活動費用計(2)	12,211,037
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	275,786
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計(4)	129,249
サービス活動外費用計(5)	24,934
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	104,315
経常増減差額(7)=(3)+(6)	380,101
特別増減の部	
特別収益計(8)	34,834
特別費用計(9)	36,214
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△1,380
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	378,721
法人税、住民税及び事業税(12)	10,942
当期活動増減差額(13)=(11)-(12)	367,779
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額(14)	8,005,970
当期末繰越活動増減差額(15)=(13)+(14)	8,373,749
基本金取崩額(16)	0
その他の積立金取崩額(17)	140,800
その他の積立金積立額(18)	304,406
次期繰越活動増減差額(19)=(15)+(16)+(17)-(18)	8,210,143

資金収支計算書

(自)2023年4月1日(至)2024年3月31日

(単位:千円)

事業活動による収支	
事業活動収入計(1)	12,617,100
事業活動支出計(2)	11,770,633
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	846,467
施設整備等による収支	
施設整備等収入計(4)	34,455
施設整備等支出計(5)	598,939
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△564,484
その他の活動による収支	
その他の活動収入計(7)	145,027
その他の活動支出計(8)	341,728
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△196,701
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)	85,282
前期末支払資金残高(11)	4,003,617
当期末支払資金残高(10)+(11)	4,088,899

貸借対照表

2024年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	5,158,400	流動負債	1,485,917
固定資産	16,995,381	固定負債	1,318,696
		負債合計	2,804,613
		純資産の部	
		基本金	983,754
		国庫補助金等特別積立金	3,830,188
		その他の積立金	6,325,083
		次期繰越活動増減差額	8,210,143
		純資産合計	19,349,168
資産合計	22,153,781	負債・純資産合計	22,153,781

東京都同胞援護会 能登半島地震緊急募金活動報告

能登半島地震で被災された皆さまならびにご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
 本会では、能登半島で発生した地震被害に対し、被災地域の一日も早い復旧・復興を願い、
 全事業所において緊急支援募金を実施いたしました。

3月8日には石川県庁へ533,917円を送金することができましたのでご報告させていただきます。

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
 このたびは、令和六年能登半島地震に際し、心温まる義援金を
 お寄せいただき、誠にありがとうございました。
 お寄せいただきました義援金は、皆様のご厚志が十分に活かせ
 ますよう、義援金受付団体、被災市町などからなる配分委員会で
 配分を決定し、被災者の方々に順次お届けしております。被災地
 は、過疎化、高齢化が進展しており、生活再建への道のりは平坦
 ではありませんが、皆様のお気持ちで被災者の方々への大きな励
 ましとなるものと確信しております。
 今回の地震は、輪島市、志賀町で県内観測史上最大の震度七を
 記録するなど、県政史上未曾有の大災害となりました。県では、
 国や市町をはじめとする多くの皆様と連携し、被災者の救助、応
 急対策に全庁を挙げて取り組んでまいりました。今後も、被災市
 町、被災者、事業者の声をしっかりと受け止め、一日も早く、被
 災者の生活と生業を再建し、能登の創造的復興の実現に向け、全
 庁総力を挙げて取り組んでいく決意であります。
 このたびお寄せいただきましたご厚情に対し、略儀ながら書中
 をもらまして厚くお礼を申し上げますとともに、皆様のますます
 のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。
 謹白

令和六年五月

石川県知事 馳 浩

ご支援ありがとうございました (敬称略順不同)

ご 寄 付

◇(株)アビック◇石川恵利香◇大林珠里◇(公財) S B I
子ども希望財団◇立川焼肉 慶州苑◇(一財)日本児童
養護施設財団◇マツダドライサービス

後 援 会

◇小淵勝◇星谷直子◇山内和子◇笹島厚子◇林優子◇
澤井晴乃◇折居千恵子◇飯田真知子◇南山徳英◇北川
穰一
◇中村屋魚店◇(有)海老山 河原照文◇(株)シイ.エイチ.
エス 代表取締役 三浦壤二◇(有)ラッコクリーンサー
ビス 代表取締役 佐々木憲寅◇(株)橋本工務店 橋本
誠一◇風間造園(株) 代表取締役 風間修一◇昭和の森
エリアサービス(株)スマイルケア昭和の森◇(株)ケイエス
機材◇(株)キタジマ 代表取締役 北島豊一◇(株)豊明
代表取締役 北村和幸◇(株)コスモス医工 代表取締役
小林寿男 ◇唐沢電気(株) 代表取締役 小林利美◇
(有)原島組◇(株)サン・ホワイト 代表取締役 三宅真◇
三峰電気(株)◇おしゃれの店ひらまつ◇長崎三丁目町会
会長 足立憲昭◇昭島サンセルフ 高野裕志◇国立
厨房サービス(株) 代表取締役 藤原章太郎◇(有)リハビ
リーサービス◇(株)ショーワ◇ヘアパルおかもと 岡本廣

資格取得の紹介

次の方々が資格取得しました。
日頃の業務に生かしご活躍を期待します。

【社会福祉士】

- フジホーム
 - 介護職員 馬場 里依
 - 生活相談員 小島 良隆
- さやま園
 - 生活支援員 山中 真美
- 東村山生活実習所
 - 生活支援員 殿貝 友里

【介護福祉士】

- フジホーム
 - 介護職員 HA KIEU ANH
(ハー キエウ アイン)
 - 介護職員 NGUYEN THI NGOC TRAM
(グエン ティ ゴック チャム)
- 原町小規模多機能居宅介護センター
 - 介護職員 伊東 滯
- 万世敬老園
 - 支援員 永井 一成
- さやま園
 - 生活支援員 市川 千夏
 - 生活支援員 田村 政子

【精神保健福祉士】

- 東村山生活実習所
 - 生活支援員 縄田 晃一

祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方々表彰されました。
おめでとうございます。

【東京都社会福祉大会感謝状「永年勤続功労者」】

- さやま園 生活支援員 角野 健一

発行者 理事長 飯山 幸雄
社会福祉法人 東京都同胞援護会
東京都新宿区原町 3-8
電話 03(3341)7161 <https://doen.jp>



'25 採用 (新卒・キャリア採用)

保育士 介護職員 生活支援員 児童指導員 他

募集中です!!

- ご利用者やご家族と寄り添える方
- 新しい仕事にチャレンジしたい方
- 創造力を活かして仕事をしたい方
- 子ども達の成長に「喜び」や「やりがい」を感じることができる方

1,700名を超えるたくさんの仲間たちが
「あなた」をお待ちしております。

採用説明会、採用試験は定期的を実施しております。
また、施設見学も随時受け付けております。



施設見学のお申込み



採用エントリー

お申し込みはこちら



あなたのエントリーをお待ちしております

雑感

私の夏は海キャンプから始まります。
キャンプ仲間と海の日近くにキャンプに行くのが恒例行事です。

ここ数年は、コロナ禍で中止していましたが、昨年から再開しました。

海の近くにテントを張り、日中は海水浴や燻製作り、地元の店の海鮮丼に舌鼓を打ち、夜は土産屋で買った干物を炙り、それをつまみに酒を飲む。

地元の祭りの太鼓が夜遅くまで鳴り続ける。波音と太鼓のハーモニーを聞きながら寝落ちする。

翌日は、朝から山車が町中を練り歩き、祭りはクライマックスを迎える。

青い海に真っ白な積乱雲を眺め、夏を実感する。
「夏が始まった〜!」年甲斐もなく、オジさんたちは子どものように海ではしゃぐのであった。

この盛夏号は正しく、夏を満喫している真ただ中に発行されています。

今年も暑い夏になりそうです。皆様、くれぐれも熱中症にはお気をつけください。

「熱中症は防げる病気です。」と、うちの看護師が申しておりました。

(昭島荘 茂木 記)



印刷所 東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国 4-1-8

令和6年7月23日 発行

